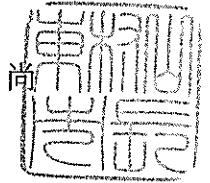




19 東都道発第17号
平成19年5月8日

国土交通省道路局長
宮田 年 耕 様

東村山市長
渡 部 尚



「中期的な計画の作成にあたっての意見について」(回答)

日頃から、東村山市の道路行政に対しまして、格別の御支援御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼のありました標記の件につきまして、別紙のとおり回答いたしますので、御確認方よろしくお願いたします。

記

1、回答事項

- 今後の道路政策や道路の整備・管理について意見に関する事項
- ・重点化を進める上で特に優先度の高い政策
 - ・効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと
 - ・その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

2、回答内容

別紙のとおり

以 上

東村山市 都市整備部 道路・交通課 川崎
042-393-5111 (内) 2755

(別紙)

記

- ・重点化を進める上で特に優先度の高い政策

他市及び主要な市域並びに幹線道路を結節する路線、コミュニティバス等公共交通機関が使用する路線、災害時における避難路及び避難場所に適用も可能な路線等、交通連絡手段、景観・環境・災害対策等まちづくり政策全体を通し、多角的なネットワークを形成可能なもの。

- ・効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

社会の多様化に応じ、交通量等数値目標を算出・設定し、費用対効果の法的根拠をもとに明確な公平性及び透明性をもって施行すること。

住民要望等の民意の尊重を図り、近隣住民の安全性、快適性等生活の質の高度化。

上記に挙げた、法的な数値目標と民意の両者を総合的に考慮できるシステムの構築。

- ・その他、道路政策や道路の整備・管理全般に対する意見

ガードレールの隙間に挟まっている金属片の発見やステンレス製の車止めの消失等、道路の舗装・修繕費用のほかにも社会背景に応じた偶発事案は跡を絶たない。また、市内の踏切には、緊急対策踏切に該当しなくとも慢性的な渋滞の根元になっている箇所もある。さらに、都市計画道路の整備率も近隣市と比較すると必ずしも高いとは言えず、狭あい道路も全てが解消されているわけではなく、依然として住民要望も多く、また事故もなくなるならない。

現在、道路政策が抱えている課題は、社会背景によって発生する事案も含め、顕在化の有無に関わらず、複雑化・多様化しており、それらが充足していると判断するのは難しい。

今後は、道路維持管理とともに、狭あい対策を含めたまちづくり全体の観点から、交通事情や民意に応えた、安全で快適な生活を維持・向上させるモビリティに富んだネットワーク形成が問われてくる。

そのためには、総合的・客観的な視点から勘案しても、道路政策及び財源確保の必要性は明確である。

以上